

【横断歩道の安全支援 名大、キクテック、オリコンサル LED で注意喚起】

## 横断歩道の安全支援

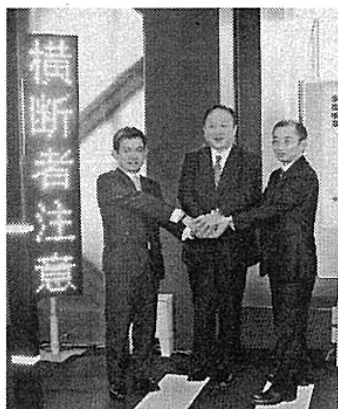
名大、キクテック  
オリコンサル LED で注意喚起

名古屋大学の中村英樹教授とキクテック（名古屋市、新美政衛社長）、オリエンタルコンサルタンツは、歩行者の安全な道路横断を支援するシステムを共同開発し

た。横断歩道に LED 発光装置を設置。ドライバーが歩行者に気付く時間と、点滅式の LED 表示板でドライバーへ知らせる仕組み。発光装置と表示板は、歩行者が横断している時だけ機能するため、通常の看板に比べ、

ドライバーへの注意喚起効果が高いのが特徴。「横断者感知式注意喚起システム」として特許を出願している。

中村教授によると、交通事故の死亡者のうち、08 年以降は「歩行中」が「自動車乗車中」を上回り、その約 7 割が高齢者。ドライバーが歩行者に気付くのが遅れたり、横断歩道での歩行者優先が守られていなかったりするのが要因という。こうし



システムを開発した  
(左から)新美社長、  
中村教授、野崎社長

た課題を解決するため、同システムの開発を進めてきた。

11 年度に長野県飯田市と高知市、12、13 年度に高知県須崎市でシステムの有効性を確認する実験を重ねた。飯田市ではラ

ウンドアバウト（円形交差点）を使い、ドライバーの視認距離が伸びることを確認。高知市と須崎市では、信号がありながら左・右折事故が多発していた交差点での効果を実証した。

5 日に名古屋市千種区

の名古屋大で中村教授、新美キクテック社長、野崎秀則オリエンタルコンサルタンツ社長がシステムを発表し、「高齢化社会を迎え、歩行中の事故防止が一層重要になる」と普及に期待を込めた。

【オリコンサルら横断者感知式注意喚起システム 高知県の国道に導入】

## 横断者感知式 注意喚起システム開発

### 高知県の国道に導入

オリコンサルら



高知県の国道での導入事例

オリエンタルコンサル  
タンスは、名古屋大学大  
学院工学研究科の中村英  
樹教授、キクテックと共  
同で、歩行者の安全な横

断を支援する「横断者感  
知式注意喚起システム」  
を開発した。横断歩道の  
歩行者を人感センサーで  
検知し、路面の道路鉄が

発光するとともに、LED  
D表示板によってドライ  
バーに注意喚起を図るも  
ので、横断歩行者の安全  
に大きく寄与する。同シ  
ステムは、実験による有  
効評価結果を踏まえ、高  
知県の国道に導入され  
た。

同システムは、すべて  
の歩行者が横断し終わっ  
た時、または、設定した  
一定秒数後には、道路鉄  
とLED表示板は消灯す  
る。また、歩行者用信号  
機と連動させることも可  
能となっており、その場  
合、赤信号時には点滅し  
ない仕様となっている。  
ポイントとは、常時あら  
ゆる方向に対して警告し  
ているものではなく、歩

行者が横断しようとして  
いる時のみ、そのことを  
検出して、また必要な方  
向のみ点滅させ、ドライ  
バーへ注意喚起を行うこ  
と。同システムは車載器  
などのデバイスを必要と  
しないことから、通過す  
るすべてのドライバーに  
注意喚起することができ  
る。

注意喚起を路面に埋め  
込んだ道路鉄で行うこと  
により、発光した道路鉄  
を注視すると、そこに横  
断歩行者がいるため、横  
断歩行者をより注意でき  
る仕組みとなっている。  
同システムは、無信号  
の横断歩道、信号交差点  
の横断歩道（右左折時へ  
の対応）、左折導流路の  
横断歩道など、様々な場  
面での適用が可能となっ  
ており、交通事故の削減  
に大きく寄与するものと  
なる。